

一般国道56号片坂バイパス開通

一般国道56号片坂バイパスが11月17日(土)に開通し、これを記念して開通式典が行われました。

開通したのは、四万十町西IC(四万十町金上野)から黒潮拳ノ川ICの延長6.1km。今回の整備では、並行する国道56号を利用した時と比較し、約4分の移動時間短縮が見込まれています。これにより、「県西部最後の交通難所」と言われていた片坂の連続カーブを回避することが可能となり、西地域域の交通の促進や安全性の向上、さらには、災害発生時の緊急車両輸送道路としての活用が期待されます。

式典には関係者ら約300人が出席。主催者のひとりとして挨拶をした大西町長は、「黒潮町にあって初めての高規格道路となった。



式典で挨拶をする大西町長

少子高齢化の進むわが町にとって、同バイパスの開通により新たな人口の流れが

促進され、スポーツツーリズムのさらなる伸びも期待できる。そして、災害時には緊急輸送など、まさに命の道となるだろう。関係者の皆さんには感謝したい」と今回の開通に対する思いを話しました。

その後

の開通セレモニーでは、四万十町の中学生・高校生によるジャズバンドの演奏、拳ノ川小学校の児童らも参加したくす玉割や風船飛ばしが行われました。



セレモニーでの風船飛ばし

その後、拳ノ川小学校でもち投げが行われた後、保健福祉支援センター「こぶし」で



鏡開きの様子

関係者らによる祝賀会が開かれ、記念すべき日を出席者らで祝いました。

地区防災計画シンポジウム・夜間津波避難訓練

「第4回黒潮町地区防災計画シンポジウム」が11月3日(土)、総合センターで開催され、町内外から約230人が参加しました。



発表する大方中学校の生徒ら

同シンポジウムでは、大方中学校の生徒会からこれまで行ってきた防災の取組に関する報告があり、その後、白浜地区、有井川地区の自主防災会からの報告がありました。その後、「被災地から伝えたこと」と題し、宮城県多賀城高等学校の佐々木克敬校長から被災の経験をふまえた講演がありました。

最後には、コーディネーターとパネリスト4名によるパネルディスカッションが行われ、「地区防

災計画のこれまでとこれからについて」をテーマに議論が繰り広げられました。議論の中では同シンポジウムの振り返りなどを行いながら、東京大学の片田敏孝特任教授から「黒潮町の皆さんに共通していることは、悲壮感なく前向きに防災に取り組んでいるところ。この数年間で、防災によってコミ

ュニティ作りが強化されてきたと感じる」と話がありました。また、佐々木校長は、「フェーズごとの想定をし、こんなに訓練を行っているところはほかにないのでは」と、黒潮町の防災

対策を評価しました。シンポジウム同日には、午後7時から大地震による津波発生を想定した夜間津波避難訓練が行われ、町全体で約3千人が参加。地区ごとに指定されている避難場所などへの避難、また、避難所開設の訓練などが実施されました。

(関連記事9ページ「備えて安心」)



パネルディスカッションの様子